

「失敗しないこと」よりも、「立ち直れること」を大切に

教頭 横堀 壮昭

私自身、これまでたくさんの失敗をしてきました。仕事でうまくいかなかったこと、人との関わりで後悔したこと、「あのとき、こうすればよかった」と振り返る出来事も少なくありません。そのたびに落ち込み、「もう失敗したくない」と思ったこともありました。それでも、周りの方に支えていただいたり、やり方を変えてもう一度挑戦したりしながら、一つ一つ乗り越えてきました。今振り返ると、私を成長させてくれたのは、失敗そのものではなく、失敗から立ち直ろうとした経験だったように思います。

子供が失敗する姿を見ると、「代わってあげたい」「失敗させたくない」と思うのは、自然な親心ではないでしょうか。私たち教職員も同じです。しかし、社会に出れば、失敗を避けて生きていくことはできません。だからこそ大切なのは、「失敗しないこと」ではなく、「失敗しても立ち直れること」だと私は考えています。

特別な支援を必要とする子供たちの中には、以前経験したことを似た場面に結び付けて考えることが苦手な場合があります。そのため、一度失敗すると、「もう自分にはできない」と感じてしまう子供もいます。「失敗に弱い」と言われることがありますが、決して心が弱いわけではありません。失敗した経験を次に生かすことに難しさがあるのです。

だからといって、失敗を避け続けることがよいわけではありません。一方で、立ち直れないほど大きな失敗は避けなければなりません。学校で大切にしているのは、「立ち直れる失敗」を経験することです。少し難しいことに挑戦し、うまくいかなかったとしても、先生や友達に支えられながら「次はこうしてみよう」と考え、再び挑戦する。その積み重ねが、将来、同じような場面で生きてきます。特別な支援を必要とする子供たちは、実際の経験から学ぶことを得意としています。「失敗したけれど、大丈夫だった」「工夫したらできた」という経験は、何よりの財産になります。

人生から失敗をなくすことはできません。しかし、失敗の後に立ち上がる力は育てることができます。私たちが育てたいのは、「失敗しない子供」ではなく、「失敗しても、助けを求め、考え、もう一度挑戦できる子供」です。学校と御家庭が同じ方向を向きながら、子供たちの挑戦と立ち直りを温かく支えていけたらと思います。

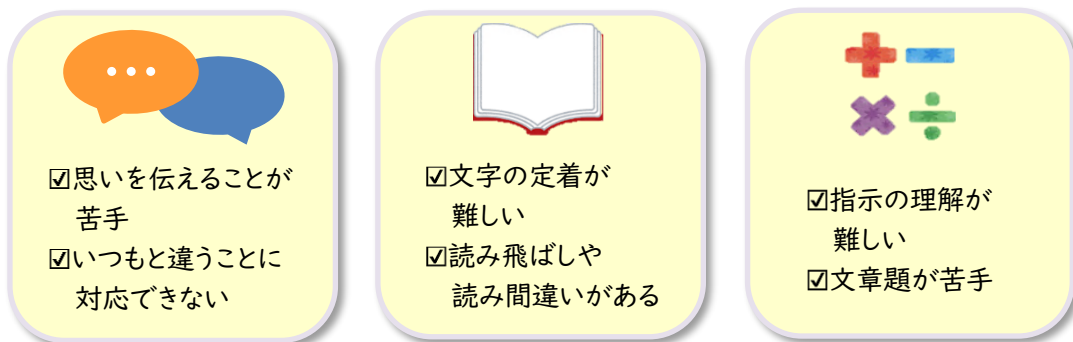
発達障害通級指導教室『Bear Room』の取組紹介

戸石 祐子

当校では、センター的機能の一環として、地域の学びを支えるための通級指導教室『Bear Room』を運営しています。新潟市内の小学校の通常学級に在籍し、学習面で困難さのあるお子さんを対象として、自分に合った学び方を見付け、在籍校で自分の良さを発揮しながら主体的に学校生活を過ごせるようになることを目標にしています。

専門性を生かした「学習支援」の特長

本教室は、「聞く・話す・読む・書く・計算する・推論する」といった、学習における困難さの改善・克服を目指して指導を行っています。



自己肯定感や自己効力感を高め、「できた」「分かった」という成功体験を積み重ねながら、前向きに学ぶ意欲を育むことを大切にしています。また、個別の指導計画に基づき計画的に学習を振り返りながら、それぞれの成長を支援しています。

在籍校・家庭との連携

通級指導は当校だけで完結するものではありません。保護者の方はもちろん、お子さんが通う小学校と密に連携し、『共通理解』のもとで支援を進めることを重視しています。また、毎年開催される「特別支援教育研究会」では、この教室の授業を公開し全国の先生方とともに指導・支援の充実を目指して研究を深めています。

教育相談受付

○対象

新潟市内の小学校の通常学級に在籍する児童

○相談の流れ

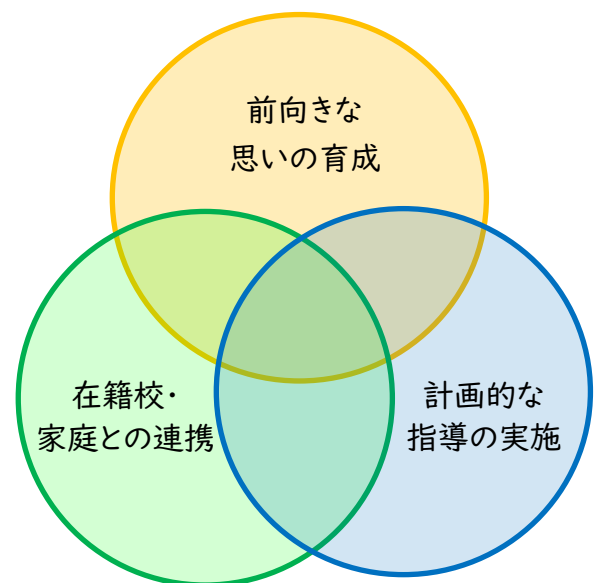
まずは、お子さんが通われている小学校の特別支援教育コーディネーターに、当校の教育相談を受けたい旨をお伝えください。

○連絡先

電 話 025-223-8383

メール kyoumu@smh.ngt.niigata-u.ac.jp

WEB <https://niigata-u-tokushi.jp>



通級指導教室紹介動画はこちらから
<https://youtu.be/1WbKsYK9PEY>

